

お知らせコーナー



モノ言う市民の水先案内人
デモカレンダー
<https://democalendar.jp/>



当会員必見の動画!!

WARmericaの運命

歴史上最も早く最強で唯一の覇権国となったアメリカが、最も早く衰退する帝国になろうとしている。その歴史を始まりからひも解くドキュメンタリー。
制作:韓国 日本語字幕 65分

注目図書

□もうすぐ日本は戦争する国になる
～この危機を回避するための
102のトークセッション～

権力者に白紙委任状を渡すのか／国民は歴史的健忘症に陥った／狂気が日常の時代に戻る／言葉が錯乱し意味が漂白される時代——ほか

□スマホに召集令状が届く日

～ようこそ！戦争と独裁の未来へ～

「カタストロフィの政治」とは何か／グローバルな独裁の時代／平和国家から戦争国家へ／日本人の消滅という問題——ほか

著：秋嶋 亮 出版：白馬社



世話人会に参加しませんか (一般会員もOK)

★次回は10月6日の予定

日 時：原則第1火曜日 9時～ 会報印刷／封入／配達手配

場 所：まちづくりサポートセンター (市役所東庁舎入って正面)

*日時を変更する場合があります。ご参加の際は前もって、

代表・影山廣輔 090-8848-3200) または世話人にご連絡ください。



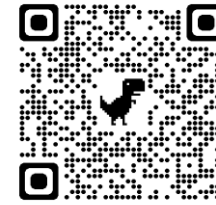
九条の会
オフィシャルサイト
<http://www.9-jo.jp>



日本を「戦争する国」にさせない!

しろい・九条の会

《代表》影山廣輔 090-8848-3200



しろい・九条の会
QRコード

日本国憲法 第九条

日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。

2 前項の目的を達するため、陸海空その他の戦力は、これを保持しない。国の交戦権は、これを認めない。



憲法紙芝居動画
QRコード

語りあおう平和の道を (白井市平和都市宣言より)

戦後81年

美しいカラー版はホームページをご覧ください。

しろい
21th
条
昭和101年

「文明」存亡の危機……
ICCへの不当な圧力に抗議を

□ICC (国際刑事裁判所) とは

個人の国際犯罪 (ジェノサイド、人道に対する罪、戦争犯罪など) を裁く常設の国際裁判所。1998年7月に国際連合全権外交使節会議において採択された国際刑事裁判所ローマ規定に基づき、2002年7月オランダのハーグに設置された。締約国は日本を含め125カ国。

□米トランプ政権によるICCへの不当な圧力

2025年2月、トランプ大統領がICCを制裁対象とする大統領令に署名。これに対し、赤根智子所長が声明を出し「深い意見の意」と強い抗議を表明。また、ICCに加盟する79の国と地域が、「深刻な犯罪が免責となる危険性を高める」との批判の共同声明を発表。そして2026年8月18日、ICCのトップ赤根智子所長らを制裁の対象にすると発表。

□日本国政府の対応

この件について、日本国政府の対応は、2025年においては前記共同声明に名を連ねなかった上、今年の赤根所長に対する制裁についても高市総理が「大変残念」と述べるにとどまり明確な批判・抗議の意を示さない態度に「弱腰」との批判が相次いでいます。

われわれ日本人一人ひとり、そして政府は、「法の支配」と「人道」を破壊しかねない米トランプ政権の横暴に対し、明確な抗議の意思を示さなければなりません。

しろい・九条の会は『白井市平和都市宣言』の精神に則り、平和の道を語り、訴え続けます

白井市平和都市宣言

白い梨の花が咲く
緑豊かな田園のまち
青く広がる空のもと
ふれあい集う文化のまち

笑顔あふれて歌声ひびき
日々のくらしのやすらぎと
希望に満ちたしあわせが

全人類の大切な地球を愛するから
かけがえのないひとびとを愛するから
語りあおう平和の道を

私たちは生命の尊さを深く認識し核兵器の廃絶と
日本のそして世界の恒久平和の実現を念願します
白井市は市民の平和と繁栄を求める心を結集し
ここに「平和都市」であることを宣言します。

昭和62年3月13日

会員・非会員問わず
投稿大募集

「語りあおう平和の道を」
(白井市平和都市宣言より)

会員投稿コーナー

世界平和からなにに気ない日常まで、どんな内容でも構いません。
ふるって皆様の声をお寄せください。

平和について

富士 福島樹雄

だいぶん前に新聞で読んだ記憶を思い出しながら書いてみました。

あるアメリカ人が、第二次世界大戦後のドイツに行って、いろんなドイツ人に、あなたはあのひどいナチス政治の下で、どうして平気で暮らしていられたのですか聞いて歩いたのに対し、例えば一人の言語学者は、おおよそこう云ったという。

つまり、あの当時ナチ革命の全過程の意味を知ることの出来る人間は皆無であったであろう。日常の生活に忙しく追われている一般市民にはとても望みがたいことであった。ナチスが政権を取った年のある日、ドイツ人の経営する商店の店先に「ドイツ人の商店」という札がさりげなく張られた時、一般の人には、何も感じなかった。またしばらくしたある日、ユダヤ人の店先に黄色い星マーク（ユダヤ人であることを示す）がさりげなく張られた時も、それはそれだけのことで、それが何年も先、あのユダヤ人が「ガス虐殺」につながるなど考えた人は一人も居なかっただろう。昨日に変わらぬ今日があり、今日に変わらぬ明日があり、家々があり、店があり仕事があり、別にドイツの一般民衆の思想がナチスになったわけでも全くないのだが、気の付かない（ドイツ社会の）変化に、彼らはいわばとめどもなく順応したのである、と。

これを日本での場合に当てはめてみると、隣国の人たちや、東南アジアの人たちかなあと思いました。

お薦めBOOK

戦争犯罪と闘う 国際刑事裁判所は屈しない（文春新書 1496） 著：赤根智子

ロシアによるウクライナ侵攻とイスラエルによるパレスチナへの非人道的な攻撃。目まぐるしく国際情勢が変化するなか、この二つの戦争に向き合い、プーチンとネタニヤフに逮捕状を出した国際刑事裁判所(ICC)。日本人として初めてそのトップに就任した著者は、ほどなくしてプーチンから逆指名手配を受けることにもなった。さらにはトランプ大統領の大統領令による経済制裁の脅威にさらされるなど、世界規模の戦争犯罪に向き合ってきた国際刑事裁判所はいま、存続の危機にある。



被爆体験を伝える

笹塚 上坂

8月22日、平和委員会主催の報告会が西白井複合センターで開催され参加しました。36名もの参加者が集まり関心の高さを感じました。

「1945年8月 広島と長崎で起きたこと」という副題のとおり、広島は、世界大会に参加した小田川敦子さんのたくさんの写真とお話を通して被爆の状況と現地の熱気を感じました。小田川さんはぜひ皆さんも肌で感じるような体験をして欲しいとおっしゃっていました。

長崎は、中学1年生の時に被爆した93歳の有田俊雄さんです。被爆について大勢の前で話すのは今回が初めてだそうです。資料を使ってわかりやすく実相をお話してくださいました。爆心地から3.3キロ、家にいたのは子どもたちだけ、家の2階の窓からパラシュートが見え日本軍だと思ったら表現できない白いような閃光と爆風、気づいたら階段下の玄関に妹さんたちといたそうです。爆風が吹き抜けていったのでガラスが刺さらなくて助かった、その後みんな黒い雨に当たり下痢が止まらなかったそうです。柿の葉を煎じて飲むといいと言われたができないので生の葉をかじったそう。恐ろしい原爆のちから「爆風400m/秒」「熱線 3,000～4,000℃」「放射能 白血病（血液のガン）」「核兵器は絶対悪、人類と絶対に共存できない」「長崎を最後の被爆地に！」と強調されました。

今、ピンポイントで使えるという小型原子爆弾が作られているがそれでも長崎の80倍の威力があるということでした。

妹さんお二人は長崎在住で脇山順子さんは「平和は食から」をモットーに料理研究家として活動され、八木道子さんは被爆証言活動をされています。YouTubeで見られますのでぜひ見てください。（右QRコード）

